

東広島植物園では、園内での活動を中心に、温室や圃場で見られる季節の花など、さまざまな情報を紹介しています。

・本施設は、宮島自然植物実験所、総合博物館、CSR(総合博物館公認学生ボランティア)など多方面から支援を受けています。

展開ゼミによる学生活動



2023年度の展開ゼミ(植物フィールド科学入門)に、東広島植物園も協力をしました。5月27日には、ががら山に登り、山頂付近の樹木を伐採し、景観と植生を維持するための環境整備を行いました。受講生は、山頂まで、ががら山の植生を観察し、樹木標本を作るための植物を採集しました。

6月3日は、東広島キャンパス内において特定外来生物オオキンケイギクの駆除を行いました。この活動には博物館やCSRメンバーからも参加がありました。キャンパスでの活動は、昨年に続き2回目です。



さらに6月11日は、鏡山公園をスタートし、大学までのスルパール沿い法面のオオキンケイギクの駆除を行いました。2回の作業で80Lの袋で37袋分集まりました。この展開ゼミは、宮島実験所の坪田先生の指導のもと行われました。

キャンパスのエ/コログサ

イネ科エ/コログサ属の一年生草本。花期は6-9月



エ/コログサ

花穂は短くて直立する。第二包穎は小穂と同じ長さで種子が見えない。



アキ/エ/コログサ

花穂は長くて先が下垂する。第二包穎が短く、種の一部が露出する。



キンエ/コロ

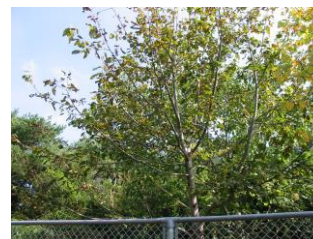
エ/コログサに似るが、花穂が金色になる。葉鞘の部分に毛がない。

花穂が犬の尾に似ていることから「いぬこら草」が転じてエ/コログサという呼び名になつたとされ、花穂を猫の視界で振ると猫がじゃれつくことからネコジャラシとも呼ばれる。

【平和大使】No.2 オオバボダイジュ

世界中から届いた苗木や種子が大切に育てられ、平和を希求する精神とともに引き継がれています。

高さ6~8m、大きいものは25mにもなる落葉高木。花期は6~7月で、葉の付け根から長い柄を持つ房状の花が咲きます。10月頃に灰褐色に熟した果実がついている姿が見られます。ドイツのゲッチンゲン大学より寄贈されたものです。



栽培実習・R5年春コース



R5年春コースが終了しました。今年のメンバーも非常に熱心に実習に取り組んでくれました。欠席した日は別日に作業を行ったり、実施日以外も各自で収穫に来たいと、しっかり楽しんでくれたようです。皆さん食べきれないほどの野菜を持ち帰り、研究室の方々にもおすそ分けをしたようです。



園内のウメを収穫し、梅酒・梅ジュース作りを体験しました。



理学部の花壇

CSR学生の協力のもと、7月13日に理学部正面の花壇に花苗の植え付けを行いました。今回は、ケイトウ、ニクニクソウ、ペチュニアなど6種の苗を植え、にぎやかな花壇となりました。理学部前は、学外から来られた方も多く通られることから、歓迎の意を込めて植え付けました。



生態実験園の田植え

6月8日、附属幼稚園園年長組19名が田植えを行いました。園児たちは、古代米の黒米を担当しました。いっしょに参加してくれた分類・生態学教室の学生5名が残りの品種(あきろまん)を植えました。園児たちは、田植えのあと、川で泥を落とし、園内にてお弁当を食べました。



園内の花

オシロイバナ *Mirabilis jalapa*



オシロイバナ科

南アメリカ原産。花期は6-10月。花は夕方開き、芳香がある。日本のオシロイバナは、主に「スズメガ」が吸蜜する。種子に粉状の胚乳があることが和名の由来。

園内の花

オジギソウ *Mimosa pudica*



マメ科

南アメリカ原産。花期は7-10月。触れたい振動を受けたり、熱を感じることで葉を閉じるが、このような運動を接触傾性運動と呼ぶ。夜間にも葉を閉じるが、こちらは就眠運動。



【お問い合わせ先】

広島大学 瀬戸内 CN 国際共同研究センター 東広島植物園

TEL:082-422-7111 (内線2842)

E-mail: tshioji@hiroshima-u.ac.jp